

豊かな三重の地下水

三重県の上水道は豊富な地下水が支えている。

水道水の水源は河川やダムからの地表水と、伏流水や井戸水など地下に存在する地下水の二つに大きく分かれる。全国の水道水源は2022年度は約75%が地表水で、約22%が地下水である。

一方、三重県では23年度は地下水が約54%を占め、全国を大きく上回る。なかでもかつて「泗水の里」と呼ばれたほど地下水が良質かつ豊富な四日市市は約59%と高い割合を占める。

地下水は降雨などによる水質や取水量の変化が少なく、河川同様流れがあり、土壌によってろ過されている。そのため、一般的に水質は地表水より良好なことが多い。地下水の特徴や豊富さをいかし、県内の複数の自治体が地下水を商品化している。

例えば、四日市市の水道水は、国が1985年（昭和60）年に定めた「おいしい水」の条件を満たし、そのおいしさをPRするため、原水を浄化処理してペットボトルに詰めて販売している。また、菰野町では鈴鹿山脈で100年以上かけてろ過された地下水を非加熱で除菌処理してペットボトルで販売している。

日本立地センターが24年度に全国で行った調査では、製造業のうち15%の企業が「立地先の選定時に重視する要素」として「工業用水・地下水」を挙げている。水の豊富さは地域の企業誘致に影響を与える要素の一つとなっている。

例えば、熊本県は水道水源の約8割を地下水が占めるほど、地下水の豊富な県だ。台湾のTSMCが巨大な半導体工場の立地場所として熊本県を21年に選定したのは、「水資源が豊富であること」が理由の一つとみられている。

国は地下水利用の拡大や気候変動等による水資源への影響などを背景に、各地の自治体が地下水を適切に利用、保全できるよう、23年に「地下水マネジメント推進プラットフォーム」を設置し、その支援を行っている。

日常生活から先端産業に影響を与える地下水の恵みを改めて認識したい。

（経営管理部 大坪 慎也）